

マーチングバンド部門/カラーガード部門 大会概要

大会名称	第38回マーチングバンド・パトントワーリング全国大会 マーチングバンド部門/カラーガード部門
大会日程	平成22年12月18日(土)・19日(日) 18日(土) - マーチングバンド部門 小学生の部・中学生の部/カラーガード部門 19日(日) - マーチングバンド部門 高等学校の部・一般の部
開催場所	さいたまスーパーアリーナ 〒330-9111 埼玉県さいたま市中央区新都心8番地
主催	一般社団法人日本マーチングバンド・パトントワーリング協会
後援	申請中
特別協賛	株式会社フォトクリエイト・ヤマハ株式会社
主旨	<p>マーチングバンド部門</p> <p>小学生の部 音楽への憧憬を大切に、マーチングを通して幅広い音楽表現活動を体得するとともに協調性・忍耐力を培う。</p> <p>中学生の部 音楽への憧憬を大切に、豊かな音楽表現活動を通して協調性・責任感を育みながら生きる力を培う。</p> <p>高等学校の部 音楽表現の可能性を追求し、より高い音楽性や技術を身につけ自主性と創造性を培う。同時に音楽文化の発展と地域社会の活性化に貢献する。</p> <p>一般の部 音楽表現の可能性を追求し、より高い音楽性や技術を身につけ自主性と創造性を培う。同時に音楽文化の発展と地域社会の活性化に貢献する。</p> <p>カラーガード部門 カラーガードを主体とした身体表現と音楽表現を通して豊かな情操と感性を育み、バンドフロント活動の一層の充実と活性化に貢献する。</p>

日 程

〔1〕参加団体打ち合わせ会議

マーチングバンド部門/カラーガード部門

日 時： 平成22年11月23日(火・祝)
12:30受付 13:00~14:30予定

場 所： ホテルグランドパレス
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-1-1 TEL03-3264-1111

〔2〕大会日程(予定)

時間は、参加団体数により変動することがありますのでご了承下さい。

	9:00	9:20		18:00
12月18日(土)	開	開	マーチングバンド部門 小学生の部・中学生の部 /カラーガード部門	終
	場	式		了

	9:00	9:20		19:30
12月19日(日)	開	開	マーチングバンド部門 高等学校の部・一般の部	終
	場	式		了

マーチングバンド部門 / カラーガード部門 支部別出場枠

支部	枠数					C G
	小学生	中学生	高等学校	一般	合計	
北海道	1	1	1+(1)	1	4+(1)	0
東北	7	3	3	3	16	1
関東	9	6	6	4	25	2
東海	2	2	5+(1)	3	12+(1)	1
北陸	1	1	2+(1)	1	5+(1)	1
関西	3	3	4+(1)	2	12+(1)	1
中国	1	1	2	1	5	1
四国	1	1	1+(1)	1	4+(1)	1
九州	1	3	4+(1)	2	10+(1)	3
沖縄	1	2	1+(1)	1	5+(1)	1
合計	27	23	29+(7)	19	98+(7)	12

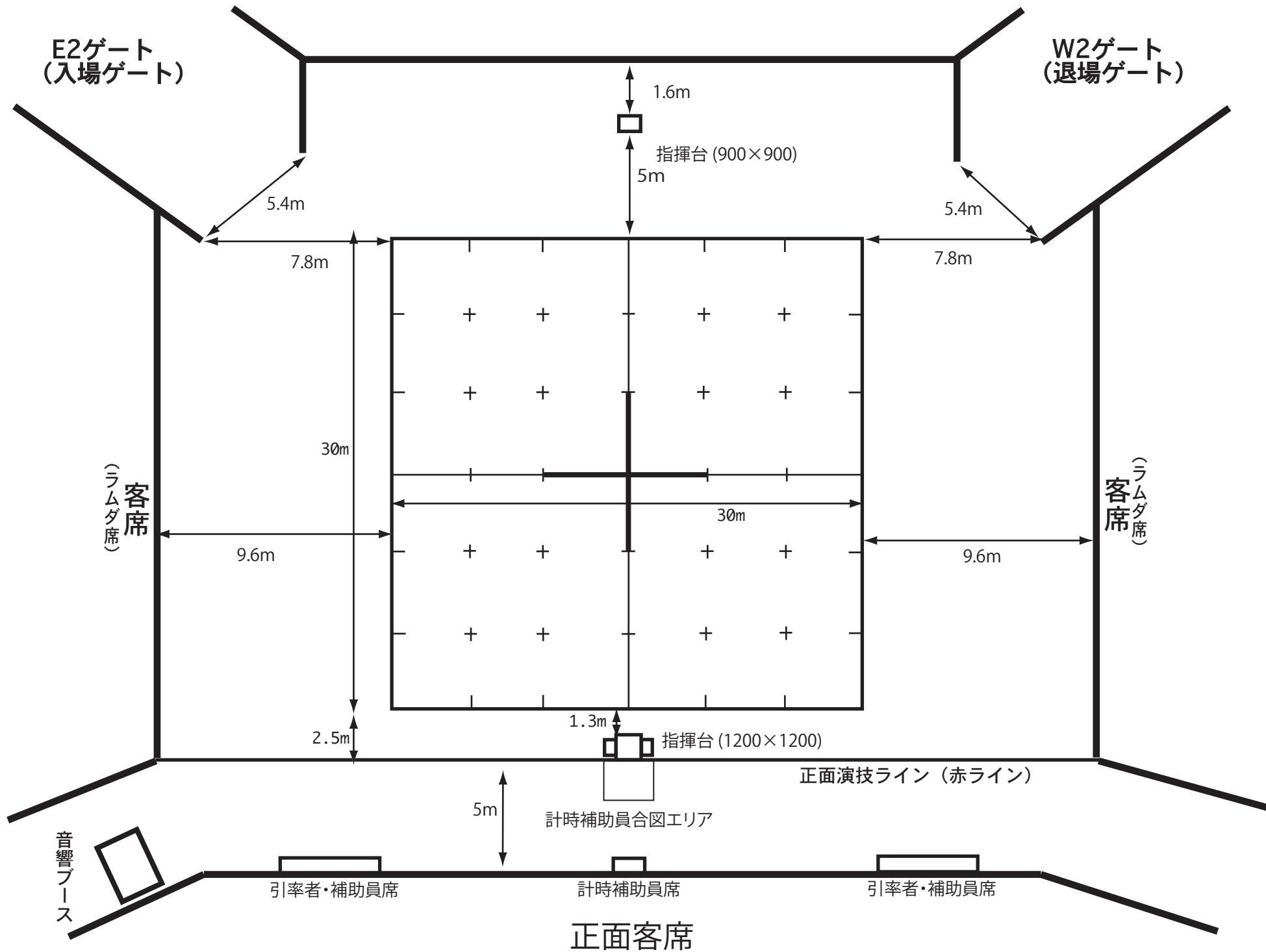
上記記載の出場枠の他に、一般社団法人日本マーチングバンド・バトントワーリング協会が必要と認めた場合は出場を認めることがある。

支部別出場枠一覧表のカッコ枠について

第38回全国大会マーチングバンド部門高等学校の部において

- ・北海道、東海、北陸、関西、四国、九州、沖縄の7支部に、小編成54名以下の団体推薦枠を特別枠として1枠増枠する。ただし、推薦条件は、**第37回全国大会に推薦されていない団体に限る。**
- ・東北、関東、中国の3支部は、第37回大会同様最低1枠を小編成枠とする。

さいたまスーパーアリーナ 演技フロアー図 (予定)



大会における著作権について

大会参加における著作権は著作権法に基づきこれを遵守すること。

(音楽著作権使用許諾申請)

1. 使用曲には下記音楽著作権使用許諾申請が必要です。

市販の楽譜利用、及び自作曲の場合は、適用除外となります。

原曲を自らアレンジした楽譜で利用する場合は、団体ごとに原曲の作曲者または著作権を持っている出版社に対して編曲使用許諾申請を行ってください。尚、著作権は著作者の死後50年を経ると消滅する事が原則ですが、著作者の著作権の有無はJASRAC (= 日本音楽著作権協会) の団体管轄支部に直接お問い合わせ下さい。(使用料等の金額並びに支払方法も提示される事があります。)

使用許諾を証明する書類を提出すること。

尚、著作権を所有している団体によっては公式の許諾用書式がない場合も想定されますが、その場合は、著作権所有の団体名、担当者名、連絡先、許諾に関する対応をされた期日等を記入し、許諾に要した金額の領収書等(コピー可)を添付してご提出下さい。

上記の申請は、全国大会参加団体打ち合わせ会議当日以前に申請が終了している事。

(肖像権)

2. プロップなどに人物画、キャラクター等をデジタルコピーまたは複写して使用する場合は肖像権の使用許諾が必要です。

マーチングバンド部門実施規定

1. 参加資格(下記(1)~(4)の要件をひとつでも満たしていない場合は参加不可とする。)

- (1)平成22年9月1日現在一般社団法人日本マーチングバンド・バトントワーリング協会に団体加盟登録していること。
大会参加は加盟登録名で参加すること。
- (2)参加メンバーは年間でその団体に所属している事。(短期メンバー補強は不可)
- (3)支部または一般社団法人日本マーチングバンド・バトントワーリング協会より推薦されていること。
- (4)平成22年11月12日(金)までに下記()の参加手続きを終えていること。(厳守)
参加申込書及び選手登録会費の納入(構成メンバーは1名につき1,000円を納入する)
構成メンバーにはプログラム、記念品を渡し、傷害保険に加入する。
構成メンバーの登録書(当日の構成メンバー数は登録人数以内であること)
構成メンバーとは、当日演技フロアーに入場し演奏演技及び指揮を行う者とする。(幼保の部は搬入搬出補助員も含む)
音楽著作権に関する書類の提出
- (5)その他大会実行委員会が指定した書式を11月23日(火・祝)参加団体打ち合わせ会議当日に提出すること。
- (6)団体及び構成メンバーの全国大会への参加は1回とする。
ゲスト及びセレモニー等の参加はこの限りではない。

2. 構成と編成

(1) 構成

幼保の部

単一加盟団体の幼児構成

複数加盟団体の合同幼児構成(演技フロアーへ入れる搬入及び搬出補助員は最大20名までとする。尚、これらの補助員は構成メンバーとして登録をすること。)

小学生の部

単一加盟団体の小学生構成

複数加盟団体の合同小学生構成

指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、小学生以外の指揮者は指揮を行えるが演奏及び演技をしてはならない。(入退場時の楽器や器物の搬入及び搬出は可)

中学生の部

単一加盟団体の中学生構成

複数加盟団体の合同中学生構成

単一加盟団体の小・中学生構成

複数加盟団体の合同小・中学生構成

指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、小中学生以外の指揮者は指揮を行えるが演奏及び演技をしてはならない。(入退場時の楽器と器物の搬入及び搬出は可)

高等学校の部

単一加盟団体の高校生構成

同一学校法人内の高等学校及び中学校による合同構成

複数の公立高等学校による合同構成(公立高等学校の統廃合に伴う移行期間中)

上記のような特殊事情がある場合に限り、合同による出場を認める

指揮者については、2名まで自由資格とする。但し、生徒以外の指揮者は指揮を行えるが演奏・演技はしてはならない。(入退場時の楽器・器物の搬入及び搬出は可)

一般の部

単一加盟団体による構成。但し、未就学児は除く。

(2) 編成

編成についての留意点

小学生の部・中学生の部・一般の部における小編成・大編成及び高等学校の部における小編成・中編成・大編成の区分は、全国大会における編成(人数)を確認の上、編成別登録を行うこと。

幼保の部

人数及び編成は自由とする。

小学生の部

的小编成・大編成とする。

楽器編成は自由とする。

編成人数は下記とする。

ア．小编成(指揮者を含めて50名以内)

イ．大編成(指揮者を含めて51名以上)

小编成・大編成の順で演技する。

中学生の部

的小编成・大編成とする。

楽器編成は自由とする。

編成人数は下記とする。

ア．小编成(指揮者を含めて54名以内)

イ．大編成(指揮者を含めて55名以上)

小编成・大編成の順で演技する。

高等学校の部

小編成・中編成・大編成とする。

楽器編成は自由とする。

編成人数は下記とする。

ア．小編成（指揮者を含めて54名以内）

イ．中編成（指揮者を含めて55名以上84名以内）

ウ．大編成（指揮者を含めて85名以上）

小編成・中編成・大編成の順で演技する。

一般の部

小編成・大編成とする。

楽器編成は自由とする。

編成人数は下記とする。

ア．小編成（指揮者を含めて70名以内）

イ．大編成（指揮者を含めて71名以上）

小編成・大編成の順で演技する。（前年大会上位6団体にシードされた団体はこの限りではない）

3. 演技

(1) 演技フロアー

演技フロアーは別記の通りとする。

演技フロアーへの入場は構成メンバーのみとする。

正面演技ラインより前方側の使用は原則として禁止する。

(2) 入退場口

演技フロアーへの入場口は実行委員会の指定したゲートを使用すること。

構成メンバーは、係員の指示に従って入場し、演奏演技終了後速やかに退場すること。

(注) 入場にかかる時間は安全を最優先し最大1分15秒を目安にセットアップ完了する。退場に関しても次の団体が速やかにセットアップ出来るように譲り合いの精神で行う。

(3) 計時

計時とは、演奏演技計時補助員（指揮者も可）が演奏演技開始の合図として旗を振り下ろした時点から演奏演技計時補助員が再度演奏演技終了の合図を出した所までとし、これを演奏演技時間とする。尚、入場開始から30秒以内で旗を振り下ろす事は厳禁とする。

また、演奏開始の合図の旗を振り下ろす前に演奏が開始された場合は計時を開始する。同様に演奏終了の合図の旗が振り下ろされた後に演奏が行われていた場合は計時を続行する。

演技時間

幼保の部・小学生の部・中学生の部

演技演奏時間は6分30秒以内とする。

前の団体が退場開始後、係員の指示で入場し演奏準備を行う。

演技開始の旗を振り下ろす前に、演奏する事は厳禁とする。

高等学校の部・一般の部

演技演奏時間は8分以内とする。

前の団体が退場開始後、係員の指示で入場し演奏準備を行う。

演技開始の旗を振り下ろす前に、演奏する事は厳禁とする。

計時時間

演技演奏時間は登録引率者より1名が演奏演技計時補助員となり、その補助員が演奏演技開始の合図として旗を振り下ろした時点から、再度演奏演技計時補助員が演奏演技終了の合図として旗を振り下ろした時点。尚、指揮者が演奏演技計時補助員を兼ねる事は可（別紙参照）

4. 器 物

「器 物」とは、楽器・バトン・手具類・ユニフォーム類のどれにも属さず、演技者以外の物を総称して器物とする。

「手 具」とは、演技者個人が容易に携帯でき、自らが用いる小道具類を手具とする。

「特殊効果」とは、フラッシュ・ストロボ・各種ライト類（ケミカル類含）等の光の効果を用いたもの全てを特殊効果とする。

手具・器物の搬入搬出は、安全かつ迅速に行うこと。また責任を持って搬入搬出をすること。尚、ここでいう搬入搬出とは演技フロアへの入退場だけのことではなく、会場への入場から退場までの全行程のことをいう。

演技フロアに搬入する器物については、次に示す規格以内の大きさとする。

規 格：1m80cm × 1m20cm × 1m50cm以内の立方体

重 量：フロア内を一人で持ち運びできる範囲内

- ・ 器物を重ねたり密着して並べる場合は、その状態が規格内の大きさであること。
- ・ 演技フロア内を複数の人数で一つの器物を持ち運んでも良い。
- ・ フロアに敷く布は器物であるが制限を設けない。

特殊効果は使用方法・数量等の詳しい説明書を事前に大会審査委員長に提出すること。

- ・ 乾電池以外の電源の使用は禁止する。
- ・ 化学反応で発光するケミカルライト類はその安全性が製造メーカーによって保証されているもののみ使用できる。
- ・ 火気・ガス類・液体類及び固形燃料類は使用を禁止する。

正副指揮台は、大会本部が設置したものを設置した場所から移動することなく使用すること。その他の場所での指揮台使用は、各団体での持ち込みを可とする。

国旗等の使用は敬意を損なわない最大限の注意をすること。尚、フラッグ等に用いる場合は原形

での使用を禁止する。

スパンコールやビーズ等衣装の付属品は、他の団体の演技の妨げとならないようにすること。

幼保の団体以外は電気の使用を禁止する。但し、特殊効果用の乾電池とビブラフォン用のバッテリーは除く。

幼保の団体では、申請のあった場合のみA C電源の使用を許可する。

5 . 搬入・搬出

楽器・手具・器物の搬入搬出は安全かつ迅速に行うこと。また責任を持って搬入搬出をすること。尚、ここでいう搬入搬出とは演技フロアへの入退場だけのことではなく、会場への入場から退場までの全行程のことをいう。

小学生の部の参加団体は、登録引率者以外に搬入搬出補助員 5 名迄を事前に申請することができる。この搬入搬出補助員及び登録引率者は、演技中はフロア内の指定の席で待機し、演奏演技終了後搬出を迅速に行う。(搬入搬出補助員及び登録引率者はフロア内での搬入搬出も許可するが、演奏演技時間内の搬入搬出補助は厳禁とする。)

登録引率者以外の搬入搬出補助員は入場券を購入しなければ会場内に入場する事ができない。

中学生の部・高等学校の部・一般の部の登録引率者は演技中、フロア内の指定の席で待機し、演奏演技終了後搬出を迅速に行う。(登録引率者はフロア内での搬入搬出も許可するが演奏演技時間内の搬入搬出補助は厳禁とする。)

6 . 罰 則

(1) 違反失格

『 2 . 構成と編成』規定に反した場合

(2) 減点 1 0 点

『 3 . 演技』規定に反した場合

『 4 . 器物』規定に反した場合

『 5 . 搬入・搬出』規定に反した場合

(3) 注意又は警告

大会実行委員会の指示に従わなかった場合

他の参加団体に迷惑となる行為のあった場合

非社会的な行為、大会主旨に反する行為のあった場合

上記に該当した団体は、実行委員会が警告書を発送する。

2 回連続警告を受けた団体は、次回大会に出場する資格を失うこともある。

- 具体的な警告例
- ・適切なゴミ処理ができなかった団体。
 - ・参加者席、自由席の占有や自由席券で指定席への出入りのあった団体。
 - ・計時終了後、約60秒以内でフロアーから退出できなかった団体。

7. その他

- (1) 大会参加に要する経費は参加団体の負担とする。
- (2) 構成メンバーの登録は演技予定者名を記載し選手登録会費を納入する。
- (3) 納入された選手登録会費は返却しない。
- (4) フロアーに入場できる人数は登録人数以内とするが、メンバーの変更は認める。
- (5) 参加団体は、代表者1名が参加団体打ち合わせ会議に出席すること。
- (6) 出演順は、参加団体打ち合わせ会議において各団体代表者が抽選の上決定する。(一般の部シード団体は除く)
- (7) 器物の搬入は指定した通路を使用し、全ての構成メンバー(手具・器物を含む)は定められた場所で待機すること。また、チューニングルーム及び入場口についても実行委員会が指定する。
- (8) グランプリ旗は翌年の全国大会において返還する。
- (9) 高等学校の部・一般の部において2年連続グランプリを受賞した団体は翌年の全国大会において特別演奏演技(エキジビジョン)とする。
- (10) 特別演奏演技(エキジビジョン)は当該年度の実施要項に従って実施する。
但し、選手登録会費は免除とする。
- (11) 特別演奏演技(エキジビジョン)参加にかかわる経費は参加団体の負担とする。
- (12) 幼児編成の団体で各支部の大会に出場し推薦された団体は同年度全国大会に参加できる。但し、2年連続出場は不可。(枠数上限以内の場合はこの限りでない)
- (13) 本規定の主旨を変更することなく、実行委員会において字句の加除訂正を行うことができる。

演奏演技時間計時方法について

(別 紙)

<p style="color: red;">入場からスタンバイ (入場に要する時間の目安は最大 1分15秒とする)</p>	<p>演奏演技時間(計時時間) (一般・高校 = 8分、中学生・小学生 = 6分30秒、CG = 5分)</p>	<p>退場</p>
<p>大会係員から入場の指示が出たら速やかに入場し演奏演技の準備をする。ただし入場から30秒は演奏は厳禁とする。この間に各団体紹介アナウンスを行う。</p>		<p>演奏演技計時補助員(指揮者も可)の計時終了合図が出たら速やかに退場する。退場時の演奏は厳禁とする。</p>
<p>各団体の引率者より1名は演奏演技計時補助員(指揮者も可)となり演奏演技開始の合図を黄色の旗を振り下ろす所作をもって行う。審判はこの合図をもって計時を開始する。</p>	<p>演奏演技計時補助員(指揮者も可)は演奏演技終了の合図を黄色の旗を振り下ろす所作をもって行う。審判はこの合図をもって計時を終了する。</p>	

CGの計時はテープのスタートからストップまでを計時する。(MD音源使用)

審査要領

マーチングバンド部門審査規定

1. 審査委員長・審査員・審判員

(1) 審査委員長

審査委員長は1名とし、審査全般の最終確認を行うとともに審査審判を円滑に遂行する。

審査委員長は審判長より報告を受け違反について最終判定を行う。

(2) 審査員

小学生の部・中学生の部

審査員は8名とする。

ア. 音楽と演奏に関する審査員 4名

イ. 視覚と動きに関する審査員 4名

MDを使用したリアルタイム審査を実施する。

高等学校の部

審査員は7名とする。

上記審査員7名とは別に、得点には反映されないカラーガードの講評者1名

ア. 音楽効果(作品の効果・作品の解釈と表現) 2名

イ. 視覚効果(作品の効果・作品の解釈と表現) 2名

ウ. 管楽器の技術(基礎技術力・表現力) 1名

エ. 打楽器の技術(基礎技術力・表現力) 1名

オ. 動きの技術(基礎技術力・表現力) 1名

カラーガードは、講評のみとする。

MDを使用したリアルタイム審査を実施する。

一般の部

審査員は8名とする。

ア. 音楽効果(作品の効果・作品の解釈と表現) 1名

イ. 視覚効果(作品の効果・作品の解釈と表現) 1名

ウ. 音楽アンサンブル(音楽性・音楽の質と技術) 1名

エ. 視覚アンサンブル(構成・演技の質と技術) 1名

オ. 管楽器の技術(基礎技術力・表現力) 1名

カ. 打楽器の技術(基礎技術力・表現力) 1名

キ. 動きの技術(基礎技術力・表現力) 1名

ク. カラーガードの技術(プログラム内容・達成度) 1名

MDを使用したリアルタイム審査を実施する。

(3) 審判員

審判員は3名とし、1名を審判長とする。

審判長は審査委員長の補佐をする。

審判員は下記の内容を審判する。

ア．人数・編成・時間・器物・事故 1名(審判長)

イ．フロアー・入退場・時間・器物・事故 2名

審判員は違反と判断した場合に赤旗を揚げ審判長に報告協議する。審判長は協議結果を審査委員長に報告する。

2. 成績・成績判定・表彰

(1) 成績

小学生の部

各審査員は上記1の(2)に基づき100点法(小数点なし)で採点する。

各審査員の評点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の得点とする。

中学生の部

各審査員は上記1の(2)に基づき100点法(小数点なし)で採点する。

各審査員の評点から罰則に課せられた減点を差し引いたものを各団体の得点とする。

高等学校の部

各審査員は上記1の(2)に基づき2つの項目をそれぞれ100点法で採点し200点満点で採点する。

各審査員の評点を2で割り100点満点に換算してから、罰則に課せられた減点を差し引いたものを、各団体の得点とする。

一般の部

各審査員は上記1の(2)に基づき2つの項目をそれぞれ100点法で採点し200点満点で採点する。(技術系の審査は鼓隊の場合は管楽器の審査は行わない。またカラーガードのない団体はカラーガードの審査は行わない。)

各審査員の評点を2で割り100点満点に換算してから、罰則に課せられた減点を差し引いたものを、各団体の得点とする。

(2) 成績判定(順位決定)

小学生・中学生の部

編成ごとに各審査員の得点を席次に換算し、これを席次点とする。

席次点合計の低いものを上位とする。

席次点合計が同点の場合は、下記の順序により上位を決定する。

ア．同点団体のみによる得点合計の多い方を上位とする。

イ．審査員全員の投票により上位を決定する。

高等学校の部

編成ごとに各審査員の得点を席次に換算し、これを席次点とする。

席次点合計の低いものを上位とする。

席次点合計が同点の場合は、下記の順序により上位を決定する。

ア．同点団体のみによる得点合計の多い方を上位とする。

イ．審査員全員の投票により上位を決定する。

一般の部

各審査員の得点合計を審査員数で割り平均点を出し、平均点の高い団体から上位とする。

平均点が同点の場合は、下記の順序により上位を決定する。

ア．席次点合計を審査員数で割り平均点を出し、平均点の低い方を上位とする。

イ．審査員全員の投票により上位を決定する。

(3) 表彰

小学生の部

ア．全出場団体に、金賞・銀賞・銅賞のいずれかを授与する。

編成別出場団体から、それぞれ金賞3：銀賞3：銅賞3の相対評価とする。但し、銅賞該当団体の内、得点平均が70点以上の団体は銀賞とする。

中学生の部

ア．全出場団体に、金賞・銀賞・銅賞のいずれかを授与する。

編成別出場団体から、それぞれ金賞3：銀賞3：銅賞3の相対評価とする。但し、銅賞該当団体の内、得点平均が75点以上の団体は銀賞とする。

イ．編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。

高等学校の部

ア．全出場団体に金賞・銀賞・銅賞を授与する。

イ．編成別出場団体からそれぞれ金賞3：銀賞3：銅賞3の相対評価とする。ただし銅賞該当団体の内得点平均が75点以上の団体は銀賞とする。

ウ．編成別最優秀団体の中から、審査員7名の投票でグランプリ団体を決定する。

エ．グランプリ団体には特別賞を授与することができる。

一般の部

ア．成績下位の団体から発表する。

イ．編成別最上位の団体に編成別最優秀賞を授与する。

ウ．第1位の団体に賞状とグランプリ旗を授与する。

エ．グランプリ団体には特別賞を授与することができる。

(4) その他

一般の部上位6団体が翌年の本大会に出場する場合は、後半6枠の出演順をシードする。6位の団体から演技し1位の団体が最後に演技する。

一般の部2年連続グランプリを受賞した特別演奏演技団体が、翌年の全国大会に出場する場合、出演順を一般の部シード枠の最後に演奏演技する。

第36回大会より審査用紙の使用を廃止し、リアルタイム審査(MD使用)のみとする。従って大会終了後審査部より参加団体に渡す物は、その団体の審査員全員のMD、参加編成の集計一覧表とする。

参加編成集計一覧表は参加団体へ資料として配布する物で一般に情報公開する物ではない。

マーチングバンド部門審査内容

小学生の部・中学生の部

音楽と演奏に関する審査

〔音楽の効果〕

- ・音楽表現
演奏者による作品の理解が出来、観客に作品の意図を伝える事が出来ているか。
- ・バランス
音楽効果と視覚効果が調和されているか管楽器と打楽器との組み合わせに調和や変化を感じさせるか。
- ・合奏の完成度
内容を把握し、ミスやエラーのない演奏になっているか。

〔管楽器の技術〕

- ・音程
呼吸法が訓練され、正確なピッチコントロールを生み出しているか。
- ・音色
音質が豊かで繊細かつ力強い多彩な音色が保たれているか。
- ・フレーズ
楽曲の流れ通りの表現が維持され違和感なく演奏されているか。
- ・アンサンブル
ブレスサポートを駆使して、p(ピアノ)やfff(フォルテシシモ)を演奏する場合もブレンド感とバランスが保たれて美しい響きで演奏されているか。

〔打楽器の技術〕

- ・打法
グリップ、フォーム、スティックハイトが正確に統一されているか。
- ・チューニング
同じ楽器間で個々のピッチがいかに正確か。
- ・バランス
奏法が統一されており楽曲に対する配慮が行われ、個々の音色、音量に差がなく、全体的なアーティキュレーションが統一されているか。
- ・ピット
ピット楽器の使用がより適切で効果的か。

小学生の部・中学生の部

視覚と動きに関する審査

〔視覚の効果〕

- ・音楽と動きの調和
音楽の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化がありその音楽の流れに視覚効果が調和されているか。
- ・集団美
演技者のショーマンシップは常に強く発揮され、統一された動きで表現されているか。
- ・表現力
観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。
- ・完成度
内容を把握し、ミスやエラーのない演奏演技になっているか。

〔動きの技術〕

- ・フットワーク
フォワードマーチ、リアマーチ、マークタイム、ターン方法等が統一されているか。
- ・姿勢
姿勢等が統一されているか。
- ・ポジションワーク
列を揃えるにあたり、揃える基準を理解しているか。
また、フォーメーションの中で間隔（インターバル、ディスタンス）の取り方を理解しているか。
- ・ボディーワーク
演奏されている音楽に適した表現がされているか。
- ・楽器の操作
演奏演技を行うにあたり楽器や手具等が適切に使われているか。
- ・手具の操作
手具の扱い方、また、振付けが音楽に適した表現をされているか。
- ・完成度
上記の動作が正確に行われ、タイミングが揃っているか。

マーチングバンド部門審査内容

高等学校の部

音 楽 効 果

作品の効果

コーディネーション

- ・音楽の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。
また、無理のない流れがあるか。
- ・クライマックスが表現されているか。
- ・管楽器と打楽器との組み合わせに調和や変化を感じさせるか。

音楽と視覚の調和

- ・音楽効果と視覚効果が調和されているか。

独創性と多様性

- ・作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。

作品の解釈と表現

表現の幅と質

- ・作品が意図するところを理解し強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅があるか。
また、それらを高めようとしているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

完成度

- ・内容を把握し、ミスやエラーのない演奏になっているか。

高等学校の部

視 覚 効 果

作品の効果

コーディネーション

- ・作品の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。
また、無理のない流れがあるか。
- ・クライマックスが表現されているか。
- ・観客にうまく伝えられる工夫がなされているか。

視覚と音楽の調和

- ・視覚効果と音楽効果が調和されているか。

独創性と多様性

- ・作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んだ作品であるか。

作品の解釈と表現

表現の幅と質

- ・作品が意図するところを理解し強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅があるか。
また、それを高めようとしているか。

ショーマンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

完成度

- ・内容を把握し、ミスやエラーのない演技になっているか。

高等学校の部

管 楽 器 の 技 術

基礎技術力

呼吸法

- ・十分に息が吸えているか。
- ・安定したブレスコントロールができているか。
- ・必要な長さまできちんと息を使えているか。

音 質

- ・無理のない自然な響きが得られているか。
- ・それぞれの楽器の特性に合った音色をつくっているか。

音 程

- ・チューニングが正確になされているか。
- ・正しいピッチにより旋律、和音とも自然な響きが得られているか。

アーティキュレーション

- ・曲想に合っているか。
- ・十分な多様性があるか。
- ・よく統一されているか。

テンポ及びタイミング

- ・ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。
- ・テンポ・タイミングがいかに正確か。

表現力

ダイナミックレンジ

- ・音量に関する解釈が統一されているか。
- ・曲想に合った強弱の付け方ができているか。

表現方法

- ・音楽の内容をよく理解して表現しているか。
- ・音楽に合った適度なフレーズ感を感じることができるか。

バランスとブレンド

- ・全体を通じて高音楽器から低音楽器までバランス良くブレンドされているか。
- ・旋律やソロとハーモニーのバランスが良く、明瞭であるか。

スタイル

- ・楽曲のジャンルの特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がいかに理解し表現しているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

高等学校の部

打楽器の技術

基礎技術力

奏法の統一と適応

- ・グリップ、フォーム、スティックハイトがいかに統一されているか。

音楽の音作り

- ・楽器本来の良い音が出せているかどうか。
(奏法的に導き出せているか。調整で導き出せているか。)
- ・楽曲に対し、適した楽器、道具(スティック等)を使用しているか。
- ・会場の音響を考慮した音作り(調整)がされているか。
- ・各楽器の音程、音域がバランス良く決められているか。

ピッチの正確さ

- ・同じ楽器間で個々のピッチがいかに正確か。
- ・楽曲の特徴を配慮した音程、音域になっているか。

アーティキュレーションの明確さ

- ・同じ内容の演奏をしていると思われる演奏が、いかに同じように演奏されているか。
- ・演奏上のミス、くせ、手順、アクセント、中断等がいかに少ないか。

テンポ及びタイミング

- ・ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。
- ・テンポ、タイミングがいかに正確か。

表現力

ダイナミックレンジ

- ・ダイナミックレンジの幅がいかに大きいか。
- ・曲想を考慮した強弱の付け方ができているか。

表現方法

- ・演奏者が曲想、曲の内容をいかに理解しているか。
- ・曲想やテンポ等を考慮した表現がされているか。

バランス

- ・各楽器間の音量のバランスが、的確に決められているか。

スタイル

- ・楽曲のジャンルのな特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がいかに理解し表現しているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

高等学校の部

動きの技術

基礎技術力

スタイルの統一と適応

- ・フォワードマーチ、リアマーチ、マークタイム、停止姿勢、ターン方法等が統一されているか。
また、その動作が演奏することに適しているか。

動作の完成度

- ・上記の動作が正確に行われ、タイミングが揃っているか。

楽器、手具等の保持および使い方

- ・演奏演技を行うにあたり楽器や手具等が適切に使われているか。

リカバリー能力

- ・ミスに対して適切な対応ができているかどうか。

列及び間隔の揃え方

- ・列を揃えるにあたり、揃える基準を理解しているか。また、フォーメーションの中で間隔（インターバル、ディスタンス）の取り方を理解しているか。

動作の転換とタイミング

- ・全ての連続動作が正確にスムーズに行われているか。

表現力

コミュニケーション

- ・表現を通して観客との対話がなされているか。

ボディーワーク

- ・演奏されている音楽に適した表現がされているか。

手具等の表現

- ・手具の扱い方、また、振付けが音楽に適した表現をされているか。

ショーマンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

マーチングバンド部門審査内容

一般の部

音楽効果

ショーが音楽的にいかに効果的であるかを、音楽的要素全体においてだけでなく、視覚的な要素との結びつきもふまえて判断する。

作品の効果

コーディネーション

- ・音楽の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。
また、無理のない流れがあるか。
- ・クライマックスが表現されているか。
- ・管楽器と打楽器との組み合わせに調和や変化を感じさせるか。

音楽と視覚の調和

- ・音楽効果と視覚効果が調和されているか。

独創性と多様性

- ・作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。

作品の解釈と表現

表現の幅と質

- ・作品が意図するところを理解し強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅があるか。
また、それらを高めようとしているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

完成度

- ・内容を把握し、ミスやエラーのない演奏になっているか。

音楽効果審査基準（クライテリア）

作品の効果

BOX5(90点～100点)

作品全体において調整は行き届いており、違和感を感じる部分はほとんど無い。

作品全体や楽曲ごとの構成、処理は、バラエティーに富んでおり、楽曲の部分的な処理にも多様性が感じられる。

場面ごとに多くの聴かせ所があり、それらが大変うまく強調されており、非常に効果的である。

作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功している場面が多々ある。

多くの場合、解釈、処理は独創的であり、それらは効果に密接に結びついている。

BOX4(80点～90点未満)

ほとんど全ての部分で良く調整されている様に感じられるが、稀に違和感を感じる場合がある。

作品全体は勿論、楽曲ごとの構成、処理にも多様性が感じられるが、平淡に感じられる部分も少しある。

多くの聴かせ所があり、うまく強調されており、効果的である。

継続して効果を発揮している部分が随所であり、観客を引き付ける事も度々ある。

随所に独創的な解釈、処理が感じられるが、それが直接効果に繋がらない場合も少しある。

BOX3(70点～80点未満)

多くの部分で、良く調整されている様に感じられるが、調整が不足していると思える部分も少なくない。

作品全体を通して構成や処理に多様性が感じられ、楽曲ごとにもやや感じる事が出来るが、平淡に感じられる部分も少なくない。

随所に聴かせ所と感じられる部分があり、やや強調もされているが、十分な効果を出し得てはいない。

効果的と思える部分は随所にあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。

独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。

BOX2(60点～70点未満)

調整されていると判断出来る部分が随所にあるが、違和感も多く感じられる。

作品全体を通して判断した時に初めて、多様性を感じられる要素がある。

聴かせ所と感じられる部分が少しあるが、うまく強調されてはいない。

BOX1(60点未満)

作品全体を通して、調整されている様には感じられず、雑然としている。

作品の解釈と表現

BOX5(90点～100点)

演奏者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高が行われている。

演奏者の集中力は常に深く継続しており、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。

演奏者による感情表現は幅広く、質的にもバラエティー豊かに現われ、観客を度々魅了し感動させる。

演奏者のミュージシャンシップは常に強く発揮され、その訴求力そのものに観客が感動する場面もしばしばある。

BOX4(80点～90点未満)

演奏者による作品の理解は充分で、観客に訴えかける能力は一貫して高いが、稀に伝わりきらない場合がある。

演奏者の集中力は安定しており、深く集中する時間帯が持続する事も度々で、多くの場合作品の意図は効果的に観客に伝わる。

演奏者は作品の感情的な起伏やその質を充分に理解しており、自然で幅広い表現がなされ、観客が心を動かされる場面も少なからずある。

多くの演奏者が演奏者としての自覚に基づき取り組んでおり、作品の意図を観客に伝えようとする意志は、充分に理解出来る位強く持っている。

BOX3(70～80点未満)

演奏者は作品の内容や意図するところを理解しており、それらを観客に伝えようとする努力もなされているが、観客を魅了する場面は多くはない。

演奏者の集中力は不安定ではあるが継続しており、稀に深く集中出来た時には、作品の意図を効果的に観客に伝える事に成功している。

演奏者は作品が持つ感情的な起伏を理解しているが、質的な理解がやや不足している為、幅広い表現が出来ていても、観客の感情を操作するには至らない。

演奏者としての自覚は存在するがやや希薄で、作品の意図を観客に伝えようとする意志は、持っているものの不十分な場合が少なくない。

BOX2(60点～70点未満)

演奏者は作品の内容をある程度理解している様に見受けられるが、それらを観客に伝ようとする積極性が不足している為、観客とのコミュニケーションは不十分である。

基礎的な技術の習得が不十分な為、演奏者の集中力は不足しており、作品の意図がうまく観客には伝わらない場合が多い。

演奏者は作品が持つ感情的な起伏をあまり良くは理解しておらず、表現の幅は狭く、ぎこちない表現である事が多い。

BOX1(60点未満)

作品の内容に対する演奏者の理解は不足しており、観客に対する意識も希薄である。

一般の部

視 覚 効 果

ショーが視覚的にいかに効果的であるかを、視覚的要素全体においてだけでなく、音楽的な要素との結びつきもふまえて判断する。

作品の効果

コーディネーション

- ・作品の流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。
また、無理のない流れがあるか。
- ・クライマックスが表現されているか。
- ・観客にうまく伝えられる工夫がなされているか。

視覚と音楽の調和

- ・視覚効果と音楽効果が調和されているか。

独創性と多様性

- ・作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んだ作品であるか。

作品の解釈と表現

表現の幅と質

- ・作品が意図するところを理解し強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅があるか。
また、それを高めようとしているか。

ショーマンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

完成度

- ・内容を把握し、ミスやエラーのない演技になっているか。

視覚効果審査基準（クライテリア）

作品の効果

BOX5（90点～100点）

作品全体において調整は行き届いており、違和感を感じる部分はほとんど無い。

作品全体や場面ごとの構成、処理は、バラエティーに富んでおり、場面の部分的な処理にも多様性が感じられる。

多くの見せ所があり、それらが大変うまく強調されており、非常に効果的である。

作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功している場面が多々ある。

多くの場合、解釈、処理は独創的であり、それらは効果に密接に結びついている。

BOX4（80点～90点未満）

ほとんど全ての部分で良く調整されている様に感じられるが、稀に違和感を感じる場合がある。

作品全体は勿論、場面ごとの構成、処理にも多様性が感じられるが、平淡に感じられる部分も少しある。

多くの見せ所があり、うまく強調されており、効果的である。

継続して効果を発揮している部分が随所にあり、観客を引き付ける事も度々ある。

随所に独創的な解釈、処理が感じられるが、それが直接効果に繋がらない場合も少しある。

BOX3（70点～80点未満）

多くの部分で、良く調整されている様に感じられるが、調整が不足していると思える部分も少なくない。

作品全体を通して構成や処理に多様性が感じられ、場面ごとにもやや感じる事が出来るが、平淡に感じられる部分も少なくない。

随所に見せ所と感じられる部分があり、やや強調もされているが、十分な効果を出し得てはいない。

効果的と思える部分は随所にあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。

独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。

BOX2（60点～70点未満）

調整されていると判断出来る部分が随所にあるが、違和感も多く感じられる。

作品全体を通して判断した時に初めて、多様性を感じられる要素がある。

見せ所と感じられる部分が少しあるが、うまく強調されてはいない。

BOX1（60点未満）

作品全体を通して、調整されている様には感じられず、雑然としている。

作品の解釈と表現

BOX5(90点～100点)

演技者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高が行われている。

演技者の集中力は常に深く継続しており、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。

演技者による感情表現は幅広く、質的にもバラエティー豊かに現われ、観客を度々魅了し感動させる。

演技者のショーマンシップは常に強く発揮され、その訴求力そのものに観客が感動する場面もしばしばある。

BOX4(80点～90点未満)

演技者による作品の理解は充分で、観客に訴えかける能力は一貫して高いが、稀に伝わりきらない場合がある。

演技者の集中力は安定しており、深く集中する時間帯が持続する事も度々で、多くの場合作品の意図は効果的に観客に伝わる。

演技者は作品の感情的な起伏やその質を十分に理解しており、自然で幅広い表現がなされ、観客が心を動かされる場面も少なからずある。

多くの演技者が自覚に基づき取り組んでおり、作品の意図を観客に伝えようとする意志は、十分に理解出来る位強く持っている。

BOX3(70点～80点未満)

演技者は作品の内容や意図するところをある程度理解しており、それらを観客に伝えようとする努力もなされているが、観客を魅了する場面は多くはない。

演技者の集中力は不安定ではあるが継続しており、稀に深く集中出来た時には、作品の意図を効果的に観客に伝える事に成功している。

演技者は作品が持つ感情的な起伏を理解しているが、質的な理解がやや不足している為、幅広い表現が出来ていても、観客の感情を操作するには至らない。

演技者としての自覚は存在するがやや希薄で、作品の意図を観客に伝えようとする意志は、持っているものの不十分な場合が少なくない。

BOX2(60点～70点未満)

演技者は作品の内容をある程度理解している様に見受けられるが、それらを観客に伝えようとする積極性が不足している為、観客とのコミュニケーションは不十分である。

基礎的な技術の習得が不十分な為、演技者の集中力は不足しており、作品の意図がうまく観客には伝わらない場合が多い。

演技者は作品が持つ感情的な起伏をあまり良くは理解しておらず、表現の幅は狭く、ぎこちない表現である事が多い。

BOX1(60点未満)

作品の内容に対する演技者の理解は不足しており、観客に対する意識も希薄である。

一般の部

音楽アンサンブル

演奏の音楽性や全体的な技術がいかに優れているかを、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

音楽性

- ・表現力
音楽的表現がいかに幅広く多様か。
- ・フレージング
曲想に合ったフレージングがなされているか。
- ・バランスとブレンド
バランスとブレンドのコントロールがどのようにされているか。
- ・テンポ
テンポの維持・コントロールがいかに正確かつ適切にされているか。

音楽の質と技術

- ・全体的な音質
全体的な音質がいかに美しいか。
- ・チューニング
チューニングがいかに正確にされているか。
- ・イントネーション
イントネーションがいかにそろっているか。
- ・ピッチコントロール
ピッチコントロールがいかに適切にされているか。
- ・リズムコントロール
リズムコントロールがいかに適切にされているか。
- ・フォーカス
フォーカスコントロールがいかに適切かつそろっているか。

音楽アンサンブル審査基準（クライテリア）

音楽性

BOX5（90点～100点）

常に幅広く深みのある音楽表現がなされ、内容も多様である。

曲想を的確に反映したフレージングが常になされ、乱れはほとんど感じられない。

場面ごとのバランスとブレンドのコントロールは常に適切に整えられている。

テンポの維持は常に正確で、変化のコントロールも柔軟かつ確実で乱れない。

BOX4（80点～90点未満）

ほとんどの場面で幅広い音楽表現がなされ、内容も多岐にわたるが、幅や深みに不足を感じる部分が少しある。

フレージングは良く整えられており、曲想を十分反映しているが、乱れが感じられる場面もまれにある。

多くの部分でバランスは整えられており、ブレンドのコントロールは適切であり、崩れる場面はあまりない。

テンポの維持は正確で、変化も適切にコントロールされるが、まれに乱れる場合がある。

BOX3（70点～80点未満）

多くの場面で音楽的な表現がされているが、あまり幅広くなく、同じように感じられる場合もある。

随所でフレージングが整えられており、その多くが曲想を反映したもののだが、不ぞろいな場面も少なくない。

バランスが整えられている部分が随所にあるが崩れる場面も多く、良いブレンドの状態はあまり長く続かない。

テンポを一定に維持することに不安はあまり感じないが、変化をコントロールしきれずに乱れる場面が少なくない。

BOX2（60点～70点未満）

音楽的に表現された部分が少しあるが、表現の幅は狭く、画一的である。

フレージングが整えられている部分が少しあるが、曲想があまり反映されていない。

BOX1（60点未満）

音楽的に何かを表現しようとしているようには感じられない。

フレージングが設定されているようには聴こえない。

音楽の質と技術

BOX5 (90点～100点)

常に美しい音質で演奏され、乱れが感じられることはほとんどない。

正確なチューニングがされており、ピッチが不ぞろいな部分はほとんどない。

ほとんどの場面でイントネーションは統一されており、良くそろっている。

ピッチコントロールは常に適切かつ柔軟で、違和感を覚えることはほとんどない。

常に適切かつ柔軟なリズムコントロールがなされ、自然な流れが保たれる。

フォーカスコントロールは常に適切で、良くそろっている。

BOX4 (80点～90点未満)

音質はおおむね美しく整えられており、乱れが感じられることは少ない。

チューニングは良く整えられており、ピッチが不ぞろいな部分は少ない。

多くの場面でイントネーションは統一されているが、そろわない部分も少しある。

適切なピッチコントロールがされている部分が多いが、違和感を覚える部分も少しある。

リズムコントロールは多くの場合適切で、流れが損なわれる場面は少ない。

場面に応じたフォーカスコントロールがなされているが、不ぞろいな場合も少しある。

BOX3 (70点～80点未満)

多くの部分で美しい音質の演奏がされるが、乱れが感じられる場面も少なくない。

チューニングはおおむね良く整えられているが、ピッチが不ぞろいな部分もある。

イントネーションが統一されていることを理解できるが、あまりそろわない。

ピッチのコントロールはあまりされておらず、違和感を覚える部分が多い。

リズムやタイミングのコントロールが機械的な場合が多く、不自然さを感じる部分もある。

ほとんどの場面でフォーカスに変化はなく、あまりそろってもない。

BOX2 (60点～70点未満)

美しい音質を保とうとする努力は認められるが、良くない場面が多々ある。

チューニングは大雑把であり、ピッチがそろわない場面が多い。

統一されたイントネーションが設定されているようには感じられない。

BOX1 (60点未満)

音質を美しく保とうとしているようには聴こえない。

チューニングは不正確で、ほとんどの場面でピッチはそろっていない。

一般の部

視 覚 ア ン サ ン ブ ル

演技の構成や全体的な技術がいかに優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

構成（フォーム、ボディ、手具）

- ・統一性
視覚的構成がいかにまとまっているか。
- ・視覚的音楽性（フレーズング、解釈、強調）
視覚的構成がいかに音楽的であるか。
- ・表現力
視覚的表現がいかに豊かであるか。
- ・多様性
視覚的構成がいかに多様であるか。

演技の質と技術

- ・同一性
同じ動作がいかに同じようにできているか。
- ・全般的技術
全般的な動作の技術がいかに優れているか。
- ・アーティキュレーション
動作のアーティキュレーションがいかにそろっているか。
- ・鮮明度
動作がいかにはっきり明らかであるか。
- ・リカバリー
リカバリーがいかに早いか。

視覚アンサンブル審査基準（クライテリア）

構成（フォーム、ボディ、手具）

BOX5（90点～100点）

統一性は十分で常にまとまっており、乱れる部分はわずかである。
十分に音楽を反映しており、違和感を覚えることはほとんどない。
ほとんどの場面で視覚的に豊かな表現がなされ、不足に感じる部分はわずかである。
多様性は大変豊富で、状態の変化は常に保たれている。

BOX4（80点～90点未満）

視覚的におおむね統一されてまとまっているが、乱れる部分も少しある。
音楽を反映している部分は多いが、違和感を覚える場面も少しある。
多くの部分で豊かな視覚的表現がなされるが、もの足りなさを覚える部分も少しある。
多様性は豊かではあるが、時折単調な部分がある。

BOX3（70点～80点未満）

多くの部分で視覚的に統一されているが、まとまりのない部分も少なくない。
音楽的な部分が少なくはないが、多くの部分で音楽を反映しきれていない。
表現力豊かな部分が所々見受けられる。
多様に化する部分も少なくないが、単調な状態が多々見受けられる。

BOX2（60点～70点未満）

いくつかの場面で統一感やまとまりが見られるが、多くの部分では見受けられない。
視覚的に音楽性を感じられる部分はあまりない。

BOX1（60点未満）

全てにおいて不ぞろいで、まとまりがない。

演技の質と技術

BOX5 (90点～100点)

常に高い動作の同一性を保ち、不ぞろいな部分は少ない。

多くの場面で継続した技術の優秀性を発揮し、未熟さを感じる部分はわずかしかない。

アーティキュレーションは十分整っており、不ぞろいな部分はほとんどない。

動作は常に鮮明で、はっきりとしている。

リカバリーは素早く、ほとんどの場合的確になされる。

BOX4 (80点～90点未満)

動作はおおむねそろっているが、不ぞろいな部分も若干ある。

技術の優秀性を示す場面が多く、未熟さはあまり目立たない。

アーティキュレーションはおおむねそろっており、不十分な場面はあまりない。

ほとんどの動作は鮮明で、はっきりしない部分はわずかである。

リカバリーはおおむね迅速にされるが、時折時間の掛かる場合があり、不完全なこともまれにある。

BOX3 (70点～80点未満)

多くの場面で動作はそろっているが、不ぞろいな部分も少なくない。

高度な技術の習得を示す部分が少なからずあるが、未熟さが見える部分もある。

多くの部分でアーティキュレーションはそろっているが、不十分な場面も少しある。

動作の多くは鮮明になされるが、はっきりしない部分も多々ある。

リカバリーはされるが、時間が掛かることが多く、不完全な場合が少なくない。

BOX2 (60点～70点未満)

動作がそろっている部分が少なくはないが、それぞれが十分ではない。

時折良好な技術を示すことがあるが、初歩的な範囲から脱しきれていない。

アーティキュレーションがそろっているように見える場面は多くない。

BOX1 (60点未満)

同じ内容の動作をしているように見える場面が、あまりない。

初歩的な動作の技術はほぼ習得しているが、それに終始している。

一般の部

管 楽 器 の 技 術

管楽器セクションの技術力や表現力がいかに高いかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

基礎技術力

呼吸法

- ・十分に息が吸えているか。
- ・安定したブレスコントロールができているか。
- ・必要な長さまできちんと息を使えているか。

音質

- ・無理のない自然な響きが得られているか。
- ・それぞれの楽器の特性に合った音色をつくっているか。

音程

- ・チューニングが正確になされているか。
- ・正しいピッチにより旋律、和音とも自然な響きが得られているか。

アーティキュレーション

- ・曲想に合っているか。
- ・十分な多様性があるか。
- ・よく統一されているか。

テンポ及びタイミング

- ・ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。
- ・テンポ・タイミングがいかに正確か。

表現力

ダイナミックレンジ

- ・音量に関しての解釈が統一されているか。
- ・曲想に合った強弱の付け方ができているか。

表現方法

- ・音楽の内容をよく理解して表現しているか。
- ・音楽に合った適度なフレーズ感を感じることができるか。

バランスとブレンド

- ・全体を通じて高音楽器から低音楽器までバランス良くブレンドされているか。
- ・旋律やソロとハーモニーのバランスが良く、明瞭であるか。

スタイル

- ・楽曲のジャンルの特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がいかに理解し表現しているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

管楽器の技術審査基準（クライテリア）

基礎技術力

BOX5 (90点～100点)

呼吸法は完璧に統一されており常にリラックスした状態を保ちつつ、ダイナミクス・音域の高度な要求に対応している。

発音方法は完璧に統一されておりダイナミクスや音色の変化をアタック時に瞬時に表現でき、常に明瞭で十分なインパクトが得られている。

多彩な音色を持ち、音質は豊かで繊細かつ力強い。安定したブレスサポートを駆使しており、p(ピアノ)やff(フォルテシモ)を演奏する場合もブレンド感とバランスが失われることはない。

テンポ、タイミング等に関する解釈は完全に統一されており発音は高度に音楽的でリズム感も豊かである。

音程維持は完璧で音楽的で確固たるイヤートレーニングに支えられた正確なピッチコントロールは美しいイントネーションを生み出している。

BOX4 (80点～90点未満)

呼吸法は十分に統一されているが難しいフレーズを演奏する場合やダイナミクス・音域に高度な要求がある時にブレスサポートが乱れ音質の劣化を招くことがある。

発音方法はよく統一されておりアタックのパリエーションも豊富で巧みなコントロールが見られるが、稀に炸裂音やピッチの乱れがある。

ブレスサポートやアンブシュアは十分に安定感している。息の流れはスムーズで楽器本来の音色が得られているが、p(ピアノ)やff(フォルテシモ)時に稀にブレンド感を欠くことがある。

テンポ、タイミング等に関する解釈は高度に統一されており発音もきれいに整っているが稀に小さなミスが見受けられる。

よくチューニングされておりメロディーやハーモニーの音程もほぼ正確で音楽的である。稀にピッチコントロールのミスによる不明瞭な響きが聞かれる。

BOX3 (70点～80点未満)

呼吸法はほぼ統一されているが時折ブレスサポートが乱れるため不安定な響きや荒々しい音色が聞かれる。

アタックはほぼ揃っているが発音方法のパリエーションを統一性を持って使い分けることが難しく不明瞭な響きが生じることが聞かれる。

ブレスサポートやアンブシュアはほぼ安定しているが、難しいフレーズでは音色にバラつきが生じる。f(フォルテ)では荒くなりp(ピアノ)では弱々しい響きになってしまいブレンド感が損なわれる。

テンポ、タイミング等の解釈は十分に整っているが、運指やアタック・リリースのミスにより、演奏の明瞭さやインパクトを欠くことが時にある。

チューニングはほぼ度出来ているが、時折メロディーやハーモニーの音程が乱れる。

BOX2 (60点～70点未満)

呼吸法において、息を吸うための努力は認められるが、成果が不十分である。ムダな力みのため、自然で豊かな響きが得られない。

アタックが不揃いで、発音も統一されておらず不明瞭なことが多い。

ブレスサポートやアンブシュアの安定感がなくスムーズを欠くことが多いため、個々の音がパートやラインとしてブレンドすることが少ない。

テンポ、タイミング等の解釈は整っているように見受けられるが、運指やアタック・リリースのミスが多く、演奏の明瞭さやインパクトが欠けている。

チューニングはある程度出来ているが、ピッチコントロールが弱く、メロディーやハーモニーを音楽的に演奏することがほとんど出来ていない。

BOX1(60点未満)

呼吸法に統一性が認められない。

タンギングが不揃いで、アンブシュアを維持する力が弱く、アタックが不明瞭でピッチも合っていない。楽器本来の音色が聞かれない。

テンポ、タイミングに関して個々の解釈、演奏がまちまちで明瞭さが無い。

チューニングが全く揃ってなく、ピッチが合うことがほとんどない。

演奏を安定させるため、楽器を保持する方法の統一とそのトレーニングが求められる。

表現力

BOX5(90点～100点)

演奏者間での曲想の解釈の相違は一切見受けられず、これ以上無い程の幅で音楽表現がなされている。また、楽曲の流れ通りの表現が終始維持され違和感はなく感じられない。

楽曲に対する理解は完璧で、高度かつ継続的な表現は不十分に感じられることは無い。また、演奏者の様子から常に高い音楽性を感じ取れ、楽曲の音楽表現に貢献している。

楽曲のスタイルや特徴を完全に理解している。

観客にアピールしようとする意志は完全で、意図した全てが観客に伝わっている様子が容易に判断できる。

BOX4(80点～90点未満)

曲想の解釈は細かな部分まで統一されており、表現の幅も十分である。また、常に楽曲の流れを考慮した表現が試みられているが稀に違和感を感じる場面がある。

楽曲に対する理解は高度で常に音楽的な表現を試みているが、時折不十分に感じられる場面がある。また、演奏者の様子からも高い音楽性をうかがえられるが、とぎれる時がある。

楽曲のスタイルや特徴を十分理解しその個性を活かした表現をしようと試みており、そのほとんどが成功している。

観客にアピールしようとする意志は十分に力強く、多くの場合意図した内容は的確に伝わっているが、稀に意図した強さで伝わらない場面がある。

BOX3(70点～80点未満)

場面ごとの音量や曲想に関する解釈はほぼ統一されており、表現にある程度の幅を感じ取れるが十分ではない。また、表現の仕方に楽曲の流れと一致しない場面が一部見受けられる。

楽曲の内容を十分理解しており音楽的な表現を試みた部分は成功しているが、全体の中での割合は少ない。また、演奏者の様子から音楽性を感じられるが、とぎれる事が多い。

楽曲のスタイルや特徴を理解しその個性を活かした表現をしようと試みている。

観客を意識しアピールしようとする姿勢が感じ取れるが力強さが十分でない為、試みている全ては伝わってこない。

BOX2(60点~70点未満)

場面ごとの音量や曲想に関して、統一された解釈が存在する様に感じられるが不十分である。

楽曲に対する理解は浅く、音楽的な表現を試みているものの内容は乏しい。

楽曲のスタイルや特徴を浅くではあるが理解している。

観客を意識しているようであるが表現しようとする姿勢が乏しい。

BOX1(60点未満)

場面ごとの音量や曲想に関して、統一された解釈がない。

楽曲に対する理解が不十分で音楽的な表現をするに至っていない。

楽曲のスタイルや特徴を演奏者が理解していない。

観客に何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。

一般の部

打楽器の技術

打楽器セクションの技術力や表現力がいかに高いかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

基礎技術力

奏法の統一と適応

- ・グリップ、フォーム、スティックハイトがいかに統一されているか。

音楽の音作り

- ・楽器本来の良い音が出せているかどうか。
(奏法的に導き出せているか。調整で導き出せているか。)
- ・楽曲に対し、適した楽器、道具(スティック等)を使用しているか。
- ・会場の音響を考慮した音作り(調整)がされているか。
- ・各楽器の音程、音域がバランス良く決められているか。

ピッチの正確さ

- ・同じ楽器間で個々のピッチがいかに正確か。
- ・楽曲の特徴を配慮した音程、音域になっているか。

アーティキュレーションの明確さ

- ・同じ内容の演奏をしていると思われる演奏が、いかに同じように演奏されているか。
- ・演奏上のミス、くせ、手順、アクセント、中断等がいかに少ないか。

テンポ及びタイミング

- ・ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。
- ・テンポ、タイミングがいかに正確か。

表現力

ダイナミックレンジ

- ・ダイナミックレンジの幅がいかに大きいか。
- ・曲想を考慮した強弱の付け方ができているか。

表現方法

- ・演奏者が曲想、曲の内容をいかに理解しているか。
- ・曲想やテンポ等を考慮した表現がされているか。

バランス

- ・各楽器間の音量のバランスが、的確に決められているか。

スタイル

- ・楽曲のジャンルの特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がいかに理解し表現しているか。

ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

打楽器の技術審査基準（クライテリア）

基礎技術力

BOX5（90点～100点）

奏法が完全に統一されており楽曲に対する配慮も適切で個人差を見つけるのはむずかしい。また個々の音色、音量に差がなく、全体的なアーティキュレーションの明確性に大きく貢献している。

楽器の特性を完璧に引き出しており、音域が効果的に設定されている。

楽譜の解釈が完全に統一され、アーティキュレーションのミスがまったくと言っても良い程無い。

同じ楽器間でのチューニングは完璧に調整されており、楽曲に対する配慮も適切で違和感を感じない。

テンポ、タイミングに対する解釈が統一されておりこれらのミスはほとんどない。

BOX4（80点～90点未満）

奏法が高度に統一され楽曲に対する配慮もなされており個人差はほとんど見受けられない。また個々の音色、音量等が十分に揃っているが、統一性の不完全さから、時折乱れを感じることもある。

楽器の特性を引き出しており、音域もバランス良く設定されている。

楽譜の解釈が高度に統一され、アーティキュレーションのミスがほとんどない。

同じ楽器間でのチューニングは揃っているが楽曲に対し適切でない場合がわずかに見受けられる。

テンポ、タイミングに対する解釈が十分揃っているがごくまれにミスがある。

BOX3（70点～80点未満）

奏法は統一されているが、グリップ、フォーム、スティックハイト等に時折バラツキが生じる。

楽器の特性をほぼ引き出しているが、若干の違和感がある。

楽譜の解釈は揃っておりアーティキュレーションもほぼ揃っているがまれにミスが生じる。

同じ楽器内でのチューニングはほぼ揃えられているが十分ではない。

テンポ、タイミングに対する解釈は揃っているが不正確な部分が少なくない。

BOX2（60点～70点未満）

奏法に関して基準があるように見受けられるが、個々を見てみるとグリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いで、個々の音色に違いが出てしまっている。

使用している楽器の特性を引き出すとする努力は見受けられるが十分でなく、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色、に不自然さが感じられる。

楽譜の内容に関する解釈は揃っている様に見受けられるが、ミスが多いため明瞭さが不十分である。

同じ楽器内でのチューニングにバラツキが感じられる。

テンポ、タイミングに対する解釈が揃っておらず、正確さに欠ける。

BOX1（60点未満）

奏法に関して基準があるように見受けられない。またグリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いで、統一感が感じられない。

使用している楽器の特性が全く引き出されていない。楽曲の特徴を考慮した楽器の音色、が引き出せていない。

楽譜の内容に関して個々の解釈、演奏がまちまちで明瞭さが無い。

同じ楽器内でのチューニングが全く揃っていない

テンポ、タイミング等の解釈がばらばらである。

表現力

BOX5(90点~100点)

曲想の解釈が統一され、演奏者間での相違は一切見受けられずこれ以上ない程の幅で音楽的な表現がなされている。また、楽曲の流れ通りの表現が継続され、違和感を全く感じない。

演奏者は楽曲を完璧に把握しており、常に高い音楽性が感じとれる。

すべての演奏者が楽曲のスタイルや特徴を完全に理解している。

意図したことすべてが観客に伝わっている様子が容易に判断できる。

BOX4(80点~90点未満)

曲想の解釈は細かな部分まで統一されており、表現の幅も十分である。また、楽曲の流れに沿った表現が継続されているが、まれに違和感を感じることもある。

演奏者の楽曲にたいする理解は高度で音楽的であるが、時折違和感がある。また、演奏者の高い音楽性をうかがえるが、まれにとぎれることがある。

演奏者が楽曲のスタイルや特徴を十分理解し、それを活かした表現をしようと試みており、ほとんどの場合は成功している。

観客を十分意識しており、多くの場合、意図したことが的確に伝わっているが、まれに意図した強さで伝わらない場面がある。

BOX3(70点~80点未満)

場面ごとの曲想の解釈はほぼ統一されており、表現の幅も感じられるが十分でない。また、表現のしかたに、楽曲の流れと一致しない場面が見受けられる。

演奏者は楽曲の内容を十分理解しており、音楽的な表現を試みた部分は成功しているが、全体的な割合は少ない。演奏者の音楽性を感じられるがとぎれる事が多い。

演奏者が楽曲のスタイルや特徴を理解し、それを活かした表現をしようと試みている。

観客を意識していることが感じ取れるが、力強さが十分でないため、すべてのことが伝わっていない。

BOX2(60点~70点未満)

場面ごとの曲想に関して統一された解釈が存在するようであるが、不十分である。

演奏者の楽曲に対する理解が浅いため、音楽的な表現を試みているが不自然である。

楽曲のスタイルや特徴を浅くではあるが理解している。

観客を意識してはいるが、伝えようとする姿勢が乏しい。

BOX1(60点未満)

場面ごとの曲想に関して、統一された解釈がない。

演奏者の楽曲に対する理解が不十分で音楽的な表現をするに至っていない。

楽曲のスタイルや特徴を演奏者が理解していない。

観客に何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。

一般の部

動きの技術

演技者の技術力や表現力がいかに高いかを、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。(動くすべてのセクションを対象としてサンプリングをとる)

基礎技術力

スタイルの統一と適応

- ・フォワードマーチ、リアマーチ、マークタイム、停止姿勢、ターン方法等が統一されているか。
また、その動作が演奏することに適しているか。

動作の完成度

- ・上記の動作が正確に行われ、タイミングが揃っているか。

楽器、手具等の保持および使い方

- ・演奏演技を行うにあたり楽器や手具等が適切に使われているか。

リカバリー能力

- ・ミスに対して適切な対応ができているかどうか。

列及び間隔の揃え方

- ・列を揃えるにあたり、揃える基準を理解しているか。また、フォーメーションの中で間隔（インターバル、ディスタンス）の取り方を理解しているか。

動作の転換とタイミング

- ・全ての連続動作が正確にスムーズに行われているか。

表現力

コミュニケーション

- ・表現を通して観客との対話がなされているか。

ボディーワーク

- ・演奏されている音楽に適した表現がされているか。

手具等の表現

- ・手具の扱い方、また、振付けが音楽に適した表現をされているか。

ショーマンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

動きの技術審査基準（クライテリア）

基礎技術力

BOX5(90点～100点)

姿勢・動作等のスタイルは完全またはそれに近い程度で統一されおり洗練されている。

動作、タイミングはよく揃っている。

楽器・手具等の持ち方、操作の仕方は完全またはそれに近い程度で統一されおり洗練されている。

ミスのリカバリーが早く正確である。

BOX4(80点～90点未満)

姿勢・動作等のスタイルはほぼ統一されており演技・演奏するのに適した動作になっているが時折ばらつきが生じる。

動作、タイミングは揃っているが、細かいところで時折乱れることがある。

楽器・手具等の持ち方、操作の仕方はほぼ統一されている、なおかつ演奏・演技に効果的であるが時折乱れることがある。

ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。

BOX3(70点～80点未満)

姿勢・動作等のスタイルを統一しようとしている基準ははっきり認識できるが、多少の不揃いが目につく。また、演技・演奏するのに適した動作になっている。

動作、タイミングはだいたい合っているが、細かいところで不揃いが見受けられる。

楽器・手具等の持ち方、操作の仕方の基準ははっきり認識でき、なおかつ演奏・演技に適しているが、多少の不揃いが目につく。

ミスのリカバリーが早い。

BOX2(60点～70点未満)

姿勢・動作等のスタイルを統一しようとしている基準は見受けられるが、かなり不揃いが目立ち統一感が弱い。また、演技・演奏するのに適した動作になりきれない。

動作、タイミングを合わせようとする努力は時折見受けられるが不十分である。

楽器・手具等の持ち方、操作の仕方を統一しようとする基準は見受けられるが、かなり不揃いが目立つ。

ミスを自覚しているがリカバリーしていない。

BOX1(60点未満)

姿勢・動作等のスタイルが全く統一されていない。また、演技・演奏するのに適した動作になっていない。

動作、タイミングが全くバラバラである。

楽器・手具等の持ち方、操作の仕方が全く統一されておらず、演奏・演技をするのに適していない。

ミスしている自覚がない。

表現力

BOX5(90点~100点)

常に列の乱れがなく、あったとしても気にならない程度。

常に間隔の乱れがなく、あったとしても気にならない程度。

動作やタイミングがすばらしく揃っている。

音楽に最も適した表現が良くできており、アピール度も高く感動できる。

BOX4(80点~90点未満)

列の乱れがあまりなく、よく整理されているが高度な技術のときに揃わないことがある。

間隔の乱れがあまりなく、よく整理されているが高度な技術のときに揃わないことがある。

動作やタイミングが良く統一されているがまれに乱れることがある。

音楽に適した表現が良くできており、アピール度も強いがまれに意図した強さで伝わらない部分がある。

BOX3(70点~80点未満)

列を揃えようとする意識がはっきり見受けられ、合わせ方も理解しているが、揃わない部分もある。

間隔のとりかたの意識がはっきり見受けられ、合わせ方も理解しているが、揃わない部分もある。

動作やタイミングは統一されているが揃わないことがある。

音楽を意識しているがアピール度が十分でないため表現力に欠ける部分がある。

BOX2(60点~70点未満)

列を揃えようとする意識は見受けられるが十分でないため、きれいに揃わない。

間隔のとりかたの意識が浅いため不揃いが目立つ。

動作やタイミングがはっきりと統一されていないため、きれいに揃わない。

音楽に合わせてようとしている姿勢は感じ取れるが表現が乏しくアピール度が弱い。

BOX1(60点未満)

列をそろえようとする意識があるようには見受けられない。

間隔のとり方を理解しているようには見受けられない。

動作やタイミングはほとんど統一されていない。

音楽に合わせてようとしているようには見受けられない。

一般の部

カラーガードの技術

カラーガードの構成や技術がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

プログラム内容

構成

プログラムの内容に独創性、一貫性があり音楽を的確に理解して創作しているか。

身体の形や動き、手具の利用

ボディーワークやダンステクニック、フラッグ、その他の手具がいかに噛み合っていて、さらに楽曲に合っているか。

音楽性

ショーを構成する音楽をいかに適切に理解して反映しているか。

多様性

プログラムを構成する要素がいかに多様であるか。

表現方法

プログラムを表現する方法が適切であるか。

達成度

スタイル

カラーガードとしてのスタイルがいかに統一されているか。

技術

身体、動作、手具の扱いを、いかに理解して実施しているか。

ポジション

演技中の身体、手具のポジションが統一されているか。

タイミング

動作、手具等のタイミングが一致しているか。

表現力

ショーの内容をいかに理解して表現されているか。

カラーガードの技術審査基準（クライテリア）

プログラム内容

BOX5 (90点～100点)

プログラムは終始一貫し、独創的な部分が多く、音楽を的確に理解し創作されている。

構成の完成度は非常に高く、ほとんどの場面でショー全体に良く貢献している。

身体の形や動き、手具の操作は、常にかみ合っており音楽的な違和感を覚える事は、ほとんどない。

ショーを構成する音楽に常に適切に反映されており不適切に感じる場面はほとんどない。

プログラムを構成する要素は豊富でたいへん多様である。

すべての場面において表現は適切で違和感はほとんどない。

BOX4 (80点～90点未満)

プログラムは一貫しており独創的な部分もあり、全体を通して音楽を理解して創作されているが違和感を覚える事もある。

構成の完成度は高く多くの場面でショーに貢献しているが違和感を覚える事もある。

身体の形や動き、手具の操作は、かみ合っているが、違和感を覚える事もある。

ショーを構成する音楽に適切に反映されているが違和感を覚える事もある。

プログラムを構成する要素は複数あり多様である。

高い確率で表現は適切であるが違和感を覚える事もある。

BOX3 (70点～80点未満)

プログラムに一貫性を感じる事もあり理解度も感じるが長続きしない。

構成の完成度はそれなりに高く、時折ショー全体への貢献が見受けられる。

身体の形や動き、手具の操作は、平均的にかみ合っているが、不適切に感じる部分が多い。

ショーを構成する音楽に平均的に反映されているが不適切に感じる場面もある。

プログラムを構成する要素は限られており、あまり多様ではない。

平均的に表現は適切であるが、不適切に感じる場面もある。

BOX2 (60点～70点未満)

プログラムに時折、脈絡を感じる部分があり、音楽を理解して創作されている部分が少しある。

身体の形や動き、手具の操作は、あまり音楽とかみあってない。

BOX1 (60点未満)

プログラムに一貫性はなく、音楽を理解して創作されているとは感じられない。

達成度

BOX5 (90点～100点)

スタイルは十分に統一されている。

身体や動作、手具の扱いの理解度は高く技術的にたいへん優れている。

身体や手具のポジションは統一されておりミスはほとんどない。

動作や手具等のタイミングは一致しており、ミスはほとんどない。

ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており一貫して優れた表現がなされている。

BOX4 (80点～90点未満)

スタイルは統一されているが徹底されていない部分もある。

身体や動作、手具の扱いの理解度は十分で技術的なレベルは高い。

身体や手具のポジションは整っておりミスは少ない。

動作や手具等のタイミングは整っており、ミスは少ない。

ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングがされており、多くの場面で優れた表現がなされている。

BOX3 (70点～80点未満)

スタイルは統一されているが不十分な時が多い。

身体や動作、手具の扱いの理解し演技しているが十分でない部分が多い。

身体や手具のポジションは整っているがミスが多い。

動作や手具等のタイミングは整っているが、ミスが多い。

ショーの内容を適切に表現するためのトレーニングがされているが十分でない場面が多い。

BOX2 (60点～70点未満)

統一されたスタイルはあるようだが不徹底である。

身体や動作、手具の扱いは若干理解し演技しているが理解の度合いは浅い。

身体や手具のポジションが決められているようであるが不徹底である。

動作や手具操作のタイミングが、あまり整っていない。

BOX1 (60点未満)

カラーガードとしての統一されたスタイルが存在するようには見受けられない。

身体や動作のことを理解して演技しているようには感じられない。

注意事項

写真およびDVD撮影販売及び二次使用について

- ・写真およびDVDの著作権は、一般社団法人日本マーチングバンド・バトントワーリング協会に帰属する。
- ・写真およびDVDの撮影販売は、当協会指定業者が行う。
- ・二次使用については、該当団体の承諾のもと使用することとする。

記録について

- ・参加団体は、実行委員会の指定する座席において、写真・ビデオ 3名(自団体演技中のみ)撮影することができる。

傷害保険について

- ・当協会にて、出演者・係員を対象に傷害保険に加入する。
- ・補償内容は「大会当日の会場到着時から会場出発時まで」とする。会場までの移動や宿泊中の傷害保険については、各団体が任意でご加入下さい。

宿泊・弁当の斡旋について

【宿泊】 斡旋日 平成22年12月17日(金)・18日(土)・19日(日)
 斡旋場所 希望条件に応じた宿泊個所を手配

ホテル名	さいたまスーパーアリーナまでの交通
浦和ロイヤルパインズホテル	京浜東北線で約5分
川越東武ホテル	埼京線・京浜東北線で約30分
マロウドイン大宮	京浜東北線で約5分
パイオランドホテル	京浜東北線で約5分
本郷旅館組合(和室)	京浜東北線で約50分

上記地域の具体的な利用ホテル、料金、客室条件等に関しては参加団体用パンフレットに掲載(応援団も可)

【弁当】 斡旋日 平成22年12月18日(土)昼食・夕食 / 19日(日)昼食・夕食
 ご希望により12月17日(金)も対応・練習会場等への配達も可
 代金 一食 1,000円のを4種、800円のを2種用意
 (いずれも飲物付、税込) 団体のみ受付(応援団も可)

詳しい内容は、参加団体用パンフレットに掲載

【宿泊・斡旋旅行会社】JTB 法人東京 教育第二事業部
 担当: 森田 / 吉田 電話: 03-5909-8013 FAX: 03-5909-8023

11月23日(火・祝)「参加団体打ち合わせ会議」時に受付窓口を開設致します。
 各種お申込みの確認・変更等にご利用下さい。

入場券販売

入場料金 指定席 ¥5,000(プログラム別売)

自由席 ¥3,500(プログラム別売)

一般販売 詳細が決定次第、当協会ホームページ(www.japan-mba.org)に掲載

参加団体への販売 参加団体に案内

「加盟員児童・生徒団体入場券」

自由席券を 2,000円にて取扱う

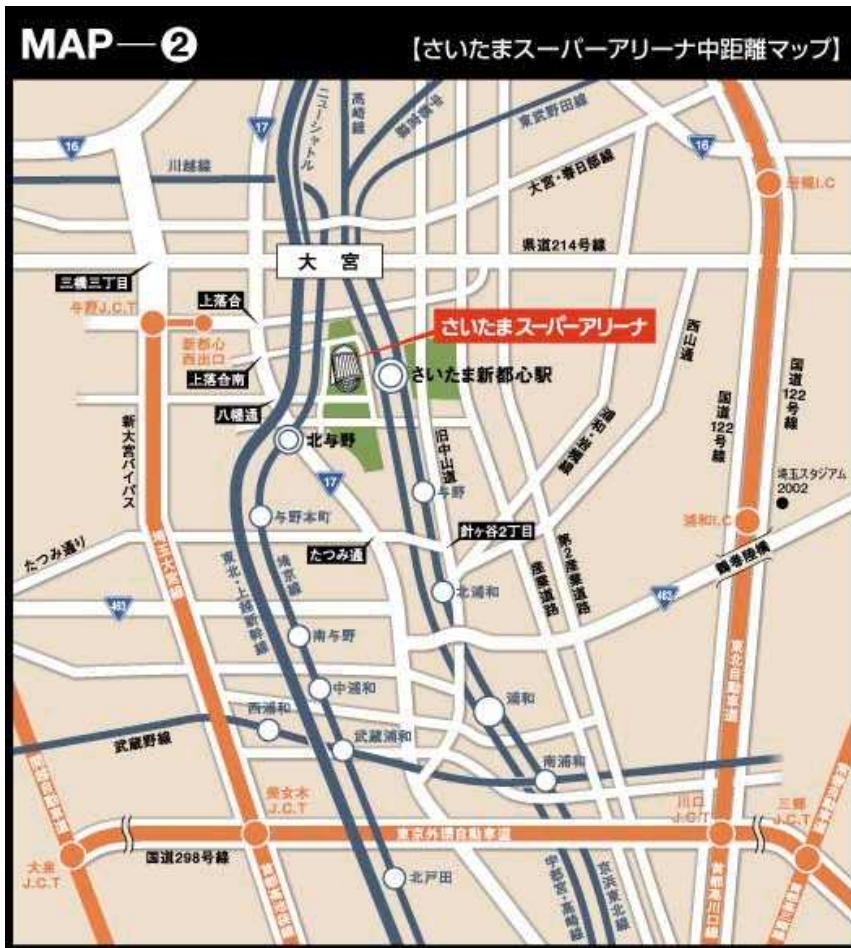
第38回全国大会参加団体(小学生の部・中学生の部・高等学校の部)の登録メンバー及び小・中・高等学校の加盟団体構成員のみ有効

一般客へのインフォメーション 観覧者・関係各位に徹底

- アクセス** = 原則的に駐車場は無い。公共交通機関を利用のこと。
- 入場** = 入場待ちの観客は係員の誘導に従い、参加団体の入場と交差しないよう協力を要請。
当日券販売は、場内の状況を見てインフォメーションを随時行う。
- 受付** = 入場受付にて、入場券を提示し半券を受取り入場。
- 場内での注意** = 出演者との面会のために場内での案内は不可。(緊急の場合を除く)
= 客席での写真(カメラ・携帯) VTR等の撮影は一切禁止。
演技中の座席への出入禁止。横断幕や応援グッズによる応援は禁止。

さいたまスーパーアリーナについて

会場までの交通機関 JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線「さいたま新都心」駅 西口下車徒歩3分



緊急対策

1. 目的

全国大会における会場管理の安全を期し、以て不測の事態による人的災害を最小限に軽減するために以下の緊急時対策をとる。

2. 予防体制

各担当者は、それぞれのポジション内の整理については、特に注意し、不必要なものは置かないようにする。

入場開始1時間前に、役員及び係員全員で、消防器所在などの会場内事情を確認するとともに不審物、危険物の有無の点検を徹底的に行う。多少でも疑わしきものがあつた場合には、大会本部に各担当責任者を通じ連絡すること。

開会30分前に再度確認する。

3. 緊急事態発生の場合

火災発生の場合

ア. 火災発生の発見者は、直ちに初期消火体制をとるとともに、臨席の消防官・警察官に通報、また、各担当責任者に連絡すること。

イ. 各担当責任者は、大会本部に通報し、大会本部は消防署に通報する。

ウ. 臨席の消防官または警察官の指示は、各担当者が受け本部に連絡する。

エ. 初期消火については、会場内所定の消火器の操作要領を、各担当責任者が関係係員に確認しておくこと。

オ. 来場者の避難誘導については、大会本部からの連絡(放送)により、来場者を混乱させることなく、あらかじめ定めた通路を使って誘導を行う。

地震の場合

ア. 来場者に対して、まず冷静に対処することを放送・ハンドマイクなどで呼びかけ、本部の状況判断を待ち、避難を要する場合は各出入口を使って館外に誘導を行う。

誘導にあたっては、各担当責任者、臨席の消防官・警察官の指示を受ける。

けが人・病人発生の場合

ア. けが人・病人が発生した場合には、各担当者を通じて大会本部に通報し、その指示を受け、救護係員の到着を待つこと。

イ. 各担当者は本部に通報する。

ウ. 大会本部は、救護班に待機場所を通報し、必要がある場合は、大会本部より救急車の出動を要請する。

エ. 救護所は、医務室に設置する。